

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光 株式会社		
事業所名	グループホーム にのみの家		
所在地	三重県津市新家町1488番地		
自己評価作成日	平成30年10月16日	評価結果市町提出日	平成31年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JivovsvoCd=2470600418-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kihon=true&amp;JivovsvoCd=2470600418-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 11 月 9 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

13年目に入り、再度力を入れ入居の方々に対し敬愛の念を忘れず「和顔愛語」常に優しい言葉、穏やかな笑顔を心掛け、皆様が心穏やかに自立と日常生活の充実を目指して家庭的な環境と地域住民との交流の下、日々精進されるように心を込めてお手伝いしております。実践理念「利用者様本位」 災害が多い昨今、高台に立地しており河川の氾濫時にも少し安心した場所です。また竹林が前にあり地盤もしっかりした中、桃園地区の避難場所にもなっており、地域の皆様にも協力をお願いして助けて頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には竹林があり、また東隣にあるお寺の、手入れされた境内の木々や草花に自然と四季を感じる環境がある。設立以来13年目、この4月から3ユニットの管理者全員が交代し、新しい管理者は、地域との交流に欠かせない運営推進会議の運営や防災に力を入れている。従来からの理念「和顔愛語」の穏やかな笑顔でやさしい言葉掛けを目指したことで、家族からもアットホームで職員は話しやすく、全体が和やかな雰囲気であると言葉をいただいている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現事業所理念の下、共有し実践に繋げる努力をしている中、新たな理念づくりを検討しており、現理念の下だけに留まらず、更に日々考え実践に努めている。	現在の理念「和顔愛語」では、表現が少し堅苦しく感じるので、年度内を目標に職員全員で見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を実施していく中で、自治会長様、民生委員様を通して地域とより密になってきており、災害時にも協力して頂けるようお願いしております。	近隣とは日常の散歩時の挨拶や旬の野菜をいただいたりの関係が出来ている。事業所の夏祭りや文化祭は、少し離れた場所で行われるが、自治会を通して開催のちらしを近隣に配り、更に密な付き合いが出来るよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	桃園地区で開催している「かがやき会」へボランティアの方と来訪し楽しんで頂いたり、運営推進会議で認知症の方々への理解を深めていた頂くお話や、AEDの活用時に連絡して頂けるようお願いしております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の入所状況や、認知症ケアや身体拘束廃止委員会の設置をお伝えしたり、かがやき会への参加。災害時、消防団第五分団へのお願いや、保育園の来訪のお伺いをお願いする予定です。	事業所の現状報告や行事報告、防災訓練などを話題に、年6回の開催に向け努力しているが、メンバー全員の都合を合わせるのに苦労している。災害時の地域消防団の協力・援助は了解を得た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	諸々の手続きや、介護保険課の担当の方と密に接する機会をもち、お互いに勉強しながらサービス向上に努めている。	各種書類の申請や相談事、要介護認定更新などで月に数回は市介護保険課へ出向き、担当者との連携を強めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より身体拘束廃止委員会を設置し、3か月に1度身体拘束、虐待防止の徹底に対する場を設け理解を深めている最中です。	委員会を設置し、全職員参加の勉強会を3ヶ月に1回開催している。現在身体拘束そのものはないが、各階フロアの階段への扉が暗証番号で開閉する扉にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隔月での虐待防止の徹底の理解を深める中、ストレスフリーなホームで、職員も利用者様も生き活きと生活支援できるよう努めています。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでも制度を利用している方がおり、職員も関心を持っている。制度について理解不足のところもあるが、関りをもって知識を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を読み上げ、その都度疑問に思った所は理解して頂けるまでお話しするという体制をとり、納得して頂いたうえで執り行うよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設置、明示し、気軽に申し出て頂けよう配慮している。	利用者の意見は普通の会話の中からの聞き取りのほかに、クリスマスのサンタクロースへのお願い事として、したいことやお願い事を紙に書くことをしている。家族とは面会時や電話のときに意見を伺い、文化祭良かったよとか転倒しない方向などで意見をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階に管理者を設置し、月1度の職員会議で職員の意見を拾い上げ、各管理者と介護支援専門員との会議で精査した上で反映させている。	普通の仕事中のほかに職員会議で意見の聞き取りを行っている。ケアの意見が多く、行事担当や先日の台風時の常備灯が点灯しなかった事などの意見も多い。近日中に管理者として初めての個人面談を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備、更新し周知を徹底し、法令遵守の中で職務を全う出来るよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月会議にて実施しており、外部研修においては2ヶ月に1度グループ内合同で実施。職員のケアの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内に他にも施設があり、外部研修や合同行事にて、意見や知識の交換をして向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込みの時や調査の時に、利用者、家族それぞれから思いを聴き取り信頼を得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上 欄		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みや入所時に聴き取り、暫定ケアプランを作成し、その都度変更できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を構築できるよう、心掛けてケアに就いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況や変化があればその都度連絡を取り、意見交換しながらケアできるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望も尊重し、墓参り、買い物、馴染みの場所等、心の繋がりを大切に出来る限り支援するよう努めている。	馴染みの関係継続には努力しており、“にのみ菜園”をつくり、昔畑をしている方が世話をし、トマト・茄子を沢山収穫している。また家族の協力を得て墓参りや床屋、買い物など出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しや気の合う人が居る中、職員が中に入り、孤立しない関係性ができるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ相談、支援が出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴をできるだけ詳しく記入して頂き、思いや意向に添えるようにしており、困難な場合は、ご家族様の意向も踏まえた上でケアを支援している。	普段の寄り添っての雑談の中で、聞き取り・カルテに記録し共有を図っている。折り紙や文化祭の作品作り、新聞を折ってゴミ箱を作りやりたいとの積極的な発言がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上 欄		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身、身体の状態を申し送りし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行うまでに、本人やご家族様の意見をできるかぎり収集し、毎月の会議にて職員と話し合い介護計画作成に努めている。	利用者全員について、日常の本人や家族、医者の意見をまとめた後、職員全員会議で話し合い、介護支援専門員が計画書作成している。モニタリングは3ヶ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテや日誌に記入する以外にも、毎月発行しているご家族様宛の新聞に記載したり、職員会議で意見交換しながら、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に対応できるよう、ご家族様と密に連絡を取り合ったり、地域との運営推進会議、市町との意見交換をする等の取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域(災害時、消防団等)や、ボランティア等の協力を頂きながら、支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医や、最寄りの医療機関との関係を密にし、適切な対応ができるように努めて支援している。	本人・家族の希望で利用者の約半数は従来からのかかりつけ医を主治医とし、残り半数が協力医である。協力医は月1～2回の訪問診療がある。従来からのかかりつけ医や眼科、皮膚科等の専門医は、家族による送迎に職員も付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置は無い分、協力医や職員が適切に判断できるよう知識や観察力の向上に努め、緊急時の対応や適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その都度時間の限り足を運び、医療機関との情報交換や相談に努めており、病院関係者との協力関係も密に取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師の配置も無く、看取りもしていない中、ご家族様に具体的な方針の提案や説明を行い、納得、了承が得られた上で地域との関係者と共に支援に努めている。	重度化したときの看取りは行わない方針であり、入居時に本人・家族に説明している。現在、法人として特別擁護老人ホームの建設を検討しており、それに伴う職員確保のための託児所の建設に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置、救急対応に備えて、職員は消防署の指導又は、社内研修にて応急処置の方法や、留意点を理解できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消防署による実地指導の実施。自治体による消防団への協力要請。災害時の担当振り分けをして体制を築いている最中です。	毎年2回、火事による消火・避難訓練を行っている。道が狭いため、はしご車が事業所まで来れない事がわかり、地元の消防団への協力要請をした。先日の台風で長時間の停電があり、その反省から備蓄品の見直しや停電時の電気設備を検討している。	高い確率で想定されている大規模地震に備え、災害時の役割分担や連絡網はあるものの、職員や利用者がパニックにならないようにマニュアルを作り、日頃から訓練をされることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や毎月の会議にて、認知症高齢者への理解を深め、馴れ合いが間違った方向に行かないよう、職員同士お互いに注意し努めている。	特に排泄に関する話し声は、聞こえていないようで聞こえているもので、声を出して言うときは本人だけに判るように注意している。また声のイントネーションも語尾を上げるときつく聞こえるので注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的に動いたり、自己決定出来る方はその場で話し合い、本人が自己決定するのが難しい方でも、声掛けして寄り添える答えが頂けるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりごとを優先していないか話し合い、できるだけ利用者本位でその日を過ごして頂けるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれに関して支援出来ていると思うが、身だしなみの支援がしっかり出来ていなかった状態で、再度徹底して支援に努めている最中です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その都度、その時々状況の把握と判断で、しっかりと食事をして頂ける工夫をし、職員間で共有に努めている。職員と一緒に食事出来る機会は少ないが、外出時などに食事時間の共有をしている。	3食とも食材は業者から届くので、職員が調理全般を行っている。利用者の手伝いはほとんどないが、誕生日の特別食やおやつ作りには出番もある。にのみ菜園で採れた野菜は追加の1品で出される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態が違う中、分量は同一にしており、ペースト、刻み、普通食と分けて摂取量を記入。水分についても形態別にして、状態や力、習慣に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力にて口腔ケア出来る方は見守りや確認し、難しい方は、協力医に往診して頂き、口腔ケアや指導をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カルテや日誌、申し送り、排泄の記録や会議での話し合いにより、その都度対応し、少しでも自立できるよう支援に努めている。	日中オムツの方はおられず、利用者の半数は自立で、排泄パターン表による定時の声かけを行っている。夜間も見守りやセンサー利用で支援しており、ポータブルは使用していない。自分の居室にトイレがあるので何かと便利である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活習慣の見直しや、飲食物の摂取の工夫、日々の運動にて便秘改善を試みている。長期に渡る便秘の場合には、医師の指示の下、下剤の服用等、個々に応じた対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間の制約、勤務体制、人員不足に伴い、利用者の満足には至っていない状況。	現状は週3回で午後の入浴である。利用者にとっても職員と1対1の時間であり、ゆっくりとおしゃべりの出来る時間として、楽しみにしている。入浴時間が職員数の関係で利用者の都合に合わせてられず、職員都合になるときもあり苦慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立の方は本人の自己決定に任せ、それらが難し方については、日々の心身の状況を把握、判断して、休息や安眠できる状態が支援できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解を深めるよう、毎日の薬のセットや、処方時に確認している。症状の変化については、注意深く観察し、医師の指示を仰ぎながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの参加を促し、その日その時々で工夫して気分転換して頂けるよう、支援に努めている。また、グループ内合同行事等や、草花、野菜の栽培で、季節を感じて頂ける支援もやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との受診や、ホームでの外出行事、季節を感じられる行事への参加を促し、支援に努めている。	天気の良い日は事業所周辺の散歩や玄関先で日光浴をしている。隣がお寺で木々や草花があり、事業所の前が竹やぶであるので、玄関にいただけで四季を感じることが出来る。定期的な花見の行事計画もあり、家族と一緒に買い物・食事に出掛ける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでお預かりさせて頂いており、ご家族様にとっても大事なお金である為、了承を得ている。外出時等で個々の能力に応じ支払いなどをお願いし、お金との関わりを持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、ご家族様の意見など考慮し、必要に応じて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、利用者様の作品を展示して、心地良い空間作りに努めている。また、加湿器、冷暖房、床暖房と、生活空間の環境設備に努めている。	全てが木造りで木目が見え、柔らかさと温もりを感じる内装構造である。職員の努力で、壁面には利用者の季節を感じる作品や写真が飾られている。畳コーナーもあり、利用者の座ったり寝転んだりの自由なくつろぎの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの会話や、一段上がった畳の場所があり、思い思いに過ごせるよう、環境設備に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室で、思い思いに飾って頂いたり、その人らしい生活空間を作ってもらえる支援を行っている。	各居室に洗面台とトイレが設置されており、大きな木製の棚とテレビ台もある。またベットはリクライニングだけでなく、高さが調節できるようになっている。カレンダーや写真、塗り絵など飾られ、それぞれ自分の部屋とされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は一人ひとりの能力の把握に努め、個々に合った支援をし、自立できるように努めている。		